

国ですが、そのうちインドではこの1年間に発症はありませんでした。毎年皆さんにご協力いただいているポリオの募金は、こういう形で間違いなく役に立っています。インドでは1億4千万人の人に一斉投与しています。

ところで皆さんは補助金申請をされましたか。新地区補助金は使い勝手の良い補助金ですので、皆さんが補助金を使ってやりたいことがあれば是非申請してください。

ださい。国際食文化交流会に招待する人の食材を購入するためにも申請できます。(2年続けて同じ内容での申請はできません) ちなみに今年申請された59クラブは全て補助金が出ました。RI ウェブサイトも是非ご覧になってみてください。個人の財団寄付や5年間の会員の状況など様々なデータが掲載されています。(『友』10月号43頁参照) 会員増強については世界のロータリンは120万人ですが、なかなか増えない状況です。日本は約9万人弱、3年間で10万人にしようと増強活動が進められています。増強を進めるためにはロータリーのマークを見たときに、立派な人格者が集まった奉仕団体であるということがもっと認知されなければなりません。南三陸町を訪問した際、日本中のロータリアンからの支援を受けたことによってわれわれ以上にロータリーをよく知るようになり、困った人を助ける団体だということが認識されました。

「ロータリーって何?」これはよく覚えておいてください。クラブのサポートと強化、人道的奉仕の重点化と増加、公共イメージと認知度の向上で、これは今ロータリークラブが最も優先してやらなければならないことです。中核的価値観としては奉仕、親睦、多様性(年齢、性別など)、高潔性、リーダーシップの5つです。

ロータリーの活性化については、特に3年以内の方について勉強会のプログラムを作ってくれるよにお願いしています。職業奉仕については、標準的な地区職業分類を作ることになっていますので是非情報を寄せください。社会奉仕は、特にブライダル委員会で100組を超えるカップルができました。国際奉仕は後でお話します。広報は地区のホームページを是非見てください。いろいろな情報が集められています。10年間の会員状況は3226名から2141名に減少していますが、会員の状況を見ますと2つ言えることがあります。1つは減少がゆっくり起きているためにあまり気がつかないこと。もう1つは入ってくる人がいても辞める人がいるため増えないということです。会員増強で成功する方法は一気に増やすことです。中クラブには立派なホームページもありますので是非実行してみてください。11月の地区大会は是非参加をお願いします。ご清聴ありがとうございました。

— ビデオ鑑賞 —



■スマイル報告

仲 文成副会長

太田、森、大野、仲、坪井、山崎、佐々岡、山下、小池

小計 9,000円

■出席報告

仲 文成副会長

会員数	出免除	出席数	欠席数	MU	出席率
14名	1名	9名	2名	2名	84.61%

第1070回例会<越谷市民まつり> 出席率: 100%

クラブ協議会 《委員会活動報告とガバナーの指導》

国際奉仕委員会: 坪井 明委員長

国際理解と親善によって世界平和に貢献できる活動を推進することを基本方針とし、具体的に4つの活動を計画しています。来年4月に実施の姉妹クラブ・台北百城クラブとの交流、来年1月(27日)には近隣に住む外国人の方をお招きし、文教大学留学生の協力を得て国際食文化交流会を開催致します。<大袋幼稚園(武藤会員の事業場)>越谷市国際交流協会への積極的な協力に努め、11月から文教大学留学生を例会に招いて卓話をしていくなど親睦を深めながら交流を推進していきます。

ガバナー: 地区の米山委員長に声をかけてみてください。また各国から青少年交換でこちらに来ている方が9名ほどおりますので、呼んでいただけたらとても喜ぶと思います。

会場監督 (SAA): 太田洋寿委員長

私は最年長のため毎年SAAを担当して10年近くになる関係上、また少人数ということもありますので例会がマンネリ化しないよう、そして秩序を保つように心がけています。基本方針と計画につきましては年度計画書に記載の通りです。

ガバナー: 秩序が保たれ時間通りに始まって時間通りに終わること、マンネリ化しないよう心がけることはとても大切なことです。

広報委員会: 佐々岡 修副委員長

当委員会はロータリー情報誌からRIの方針や地区・クラブの活動をはじめとするロータリーの公式情報を紹介し、会員の知識向上を図ると共にロータリー活動の広報に寄与することを基本方針としています。具体的には、ロータリー情報誌や強化月間に合わせたロータリー情報の紹介や家庭集会の実施を行います。現実問題として当クラブでは会員を増やすことが一つの大きな課題ですので、公式な広報もさることながら全ての縁を使って友人や知人などを例会場に招待し、入会を呼びかけるようお願いしています。

ガバナー: 地区ホームページ上の「活動案内」で来年実施予定の国際食文化交流会をお知らせしてください。多くの人の目に留まると思います。

会計: 山下良雄委員

クラブ活動の根源となるクラブ資金を適正に管理・保管し、クラブの円滑な運営に寄与することを基本方針としています。そのためにも会員増強が必要と認識しています。

会計監査: 山下良雄委員(代理)

収入・支出・決算について正確かつ適正であるかどうか監査

することを基本とします。

会員増強・退会防止部門：山下良雄部門長

昨年度（伸年度）は会長自ら4名の入会を達成しました。今年度は例会日を主な活動日として情報収集や具体的な活動（例会終了後）を行うなど会員獲得に向けて動いています。
ガバナー：いろいろな方法があると思いますが、例会場に来てもらうことが一番間違いないスタートだと思います。年度ごとの目標を決めて活動されることが増強の一番の決め手です。

山崎会長：かつて会員が50名近くいた頃の会員獲得の手法にこだわり過ぎたと思います。発想を変えなければかつてのようなクラブに成し得ないのでしょうか。常日頃思い統けて行動していくことが大切ではないかと思います。

小池幹事：

私はロータリークラブのことを知らないまま、開業して2年目に仲さんに勧められて入会し1年が経ちました。知り合いの方に声をかけても、ほとんどの方がロータリークラブを知りません。ロータリークラブを知っている方でも、寄付金を取られるとか会費が高い、お金がないと入れないといった理由で断るが非常に多いです。入会を勧めても私の経験が少ないため、その人の心を動かすようなロータリーの説明ができません。ロータリークラブの認識が少ない中、多くの方は付き合いで入会されているのではないかという気がします。ロータリーが良いと思わせるためには何か必要なのか、また辞めていった人がなぜ辞めたかを理解していかなければ退会防止につながらないと思います。個人的に、会員増強の際にネックになっている部分をお話させていただきました。

社会奉仕委員会：大野 弘副委員長

越谷市民まつりやゴミゼロ運動等、地域に密着した奉仕活動へ積極的に参加し、スマイル活動の推進に努めています。また、当クラブの大きな事業である国際食文化交流会につきましても国際奉仕委員会と協力し、文教大学留学生だけでなく地元の方にも参加していただけるよう対応しています。

職業奉仕委員会：森 紀二委員長

職業奉仕は目に見えない奉仕であり、地区においても各クラブにおいても予算が最小限で目立たない奉仕です。職業奉仕という考え方とは、他の多くの奉仕団体にはないロータリー特有の主義主張で、いわばロータリーの金看板と言って良いくらい大事な奉仕観念でありながら、今や世界奉仕の方向になり残念に思います。今年度の「基本方針と計画および実施方法」は年度計画書の通りです。

ロータリー財団・米山記念奨学・新世代委員会：

大野 弘委員長

強化月間に合わせた卓話や関連情報を伝えるなどロータリー財団、米山記念奨学事業への理解を推進しながら財団寄付（230ドル<内ボリオ・プラス30ドル>）、米山寄付（20000円）への寄付増進を図り、特に新会員の皆さんには積極的な協力をお願いしております。しかしながら、会費との関係や他クラブ事業等とのバランスもあり、目標達成に向けての活動と共に、各会員からの金額を含めた柔軟な協力もいただければと考えております。

ガバナー：寄付は無理のない範囲で結構ですので全員の方に参加をお願いしたいと思っています。全員参加型の財団・米山の仕組みを考えてももらえないかということです。いかがでしょうか。田中作次会長も、一定金額を集めることは大事ですが、それ以上に多くの人にこの活動に参加してもらうことが大事だと仰っています。

管理運営部門：太田洋寿部門長

先輩会員は後輩会員に親切に対応しております。会員の少ないクラブですので、配偶者同伴の例会や諸会合への出席を皆さんにお願いしています。仲良く楽しく、そして活気あるクラブにすることが退会防止と会員増強につながると考えています。

出席委員会：大野 弘委員長

例会出席は会員の必須条件になっていますが、数字的に見てもわがクラブはそれほど悪くないと思っています。いろいろな会合や地区セミナーにメークアップする会員もあり、そういったことからいい数字が出ているのだと思います。新しい会員が何人かいらっしゃいますので、積極的に近隣クラブへのメークアップを奨める活動も必要と考えています。

親睦委員会：山下良雄副委員長

毎月の誕生・結婚祝い、納涼例会（8月実施）やクリスマス例会（12月予定）は家族同伴で実施しています。親睦旅行についても協議の上で実施の予定です。人数が少ないクラブですので親睦活動が会員増強に繋がると思っています。

会報・雑誌委員会：森 紀二委員長

バランスのとれた魅力的な会報作りはなかなか難しいですが、例会内容の他に「友」やガバナー月信から有用な記事を抜粋し会員に伝えるようにしています。

仲副会長：

今年度は山崎会長のもとで副会長を務めています。山崎会長の素晴らしい挨拶や卓話に感心するばかりですが、これを是非多くの新会員に聞いてもらえたたらと思っています。仕事で付き合いのある4名の現会員はひとつ返事で入会してくれました。感謝しています。数名の方に声をかけていますが、急がず気長に根気強く活動を継続していきたいと思います。

講評：関森初義ガバナー補佐

皆さん、長時間にわたるクラブ協議会、例会たいへんお疲れ様でした。会長との懇談の中で強く感じたことは、会長自身のクラブに対する愛情、ロータリーそのものに非常に愛情がある、そういう熱意を感じた懇談会でした。会員増強を第一課題とされる中クラブさん、会員を募るに当たって様々な支障もあるかもしれません、ガバナーからのクラブ活性化のためのアドバイス、会員を増強するためのお話、クラブに合った身の丈の組織、そういう組織の中でCLPがあるといったところから最終的には仲副会長が言わされたように人柄というところで会員増強が成されると思いますので、皆さんの人柄を知っている方を例会へ呼ぶといった些細なお誘いから一つの広がりが出るかと思います。会長の熱意を皆さんお一人お一人が受け止め、皆さんで推進して行きましょう。

挨拶：田中徳尚ガバナー

しっかりとしたお出迎えをいただき、また例会、クラブ協議会も申し分のない話し合いができたのではないかと思います。お昼ごはんもさることながら、このクラブの持っている魅力を皆さんがあな一度再認識して、そこをしっかりと入会予定者の方に伝えていただきたいと思います。自信を持って例会に来ていただける内容です。まずは25周年を何名で迎えるか、25名は必要ではないか、といったように具体的な計画を立て、先を見据えてクラブを作つて行っていただくことをお願いしたいと思います。残り8ヶ月以上残っていますので、増強に集中するのであればそれにつながるような例会にしていただき、越谷中方式と言われるようなユニークな増強の方法を編み出していただきたいと思います。本日は歓迎いただきましてありがとうございました。